

故郷(ふるさと)

島根センターの秋元さんからバトンを受け取りました、兵庫センターの盛舛です。ご紹介いただいたとおり秋元さんとは同期で、早くも5年のお付き合い、ということになります。しかも出身地も同じ沖縄なので、秋元さんの“寒さを凌ぐ方法を知らず…”という文章には非常に共感できます。私は今でも寒さに慣れることができずにおり、この文章を皆さまに読んでいただく頃には暖かくなっていることを願うばかりです。

沖縄を離れて東京へ、そして現在は兵庫にいますが、当初は故郷とのさまざまな違いに驚き、目にするもの、感じるものの多くが新鮮だったことを思い出します。

特に新鮮に感じたのは気候でした。沖縄は亜熱帯に分類される気候で、季節は四季というより春・夏・夏・秋、といったところでしょうか。1年を通して暖かいことをご存知のとおりです。それに対してこちらでは、はっきりとした四季があります。年中暖かい気候で過ごしてきた私にとって、それはとても新鮮でした。

沖縄では樹木には1年中緑の葉があり、赤や黄色など原色の花もほぼ年中、鮮やかに咲いています。まさに常夏のイメージです。しかしこちらでは、四季を風景で感じることができます。春には淡いピンクの桜が咲き、風が吹くと花びらがひらひらと舞います。沖縄の桜は花ごと落ちてしまうので、舞う花びらにすごく感動したのを覚えています。また、秋には色鮮やかな紅葉を観て感動。ほかにも柿の木に実が“たわわ”になっている姿を見て、マンガに出てくる風景と同じだと感動しました。そして冬になると、経験したことのない寒さに驚き、樹木が幹と枝だけで葉っぱがない姿に驚き、季節を感じました。

四季を感じて楽しみつつも、離れた故郷を懐かしく思

うことも多くあります。例えば海。こちらでも海を見ることはできますが、やはり沖縄の海の色は別格です。とても癒され、元気をもらうことができます。それから食べ物。これまで日常のように食卓に並んでいた“ふーりチャー”や“ソーキ汁”、“沖縄そば”が食べたくなりますが、こちらではうまく食材が探せず、諦めることも多くあります。帰省したときにはそれらの料理を食べ、活力を補充しています。さらには三線（沖縄の三味線）の音やエイサー（沖縄の盆踊り）など、現在身近では感じられなくなったものがとても懐かしく感じます。

故郷を離れて気候や文化の違いを感じると、新鮮な気持ちと同時に、故郷を懐かしく思う気持ちが湧いてきます。そして今、私は故郷がどんどん好きになっています。

私にとって気持ちが落ち着き、活力が補充できる場所。これからも年に数回は帰省して、ますます元気に過ごしていきたいと思います。



さて、今回のリレートークは、ポリテクセンター八幡の藤田さんです。藤田さんは、新人で何もわからない私にいろいろなことを教えてくれた先輩です。それでは、よろしくお願ひします。